

3 すばらしさにも、目を向けて

情報機器を活用することのよさも取り上げました。情報機器の危険な側面だけに目を向けるのではなく、それらをよりよく扱っていかうとする意欲を高めます。



1年「7 私の話を聞いてね」p.36



2年「7 明日、みんなで着よう」p.33

内容解説資料

発行者：小泉 茂 発行所：光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9

電話 03-3493-2111（代表） 光村図書ウェブサイト：www.mitsumura-tosho.co.jp

印刷：協和オフセット印刷株式会社 デザイン：陽々舎



光村図書は 「情報モラル」を こう考えました

情報機器や、それらを介したコミュニケーションは、

現代人の生活と切り離せないものになっています。

生徒たちが情報と適切に付き合えるようになることを願って、

光村図書では、次の三つのことを大切にして、教科書を編集しました。

1

3年間を通して、じっくりと向き合う

2

リアリティのある場面を設定

3

すばらしさにも、目を向けて

1 3年間を通して、じっくりと向き合う

全学年に、ユニット「情報モラルについて考える」を設けました。情報機器の使用が増える夏休みを経た9～10月に配することで、**実感を伴って考えられる**ようにしました。

教材



1年「15 言葉の向こうに」p.73

深めたいむ



1年「深めたいむ」p.78

読み物教材で考えた道徳的価値を、「深めたいむ」で活動を通して確かめ、さらに深く実感を伴って考えていきます。学びを確実なものにするための工夫です。

2 リアリティのある場面を設定

「深めたいむ」では、生徒の日常に起こりがちな問題場面を取り上げました。各学年の特性も考慮し、生徒が**自分のこととして考え**、活動することができます。

1年

複雑な中学生の友達関係。トラブルを起こさないために、トラブルに巻き込まれないために必要なことについて考えます。

2年

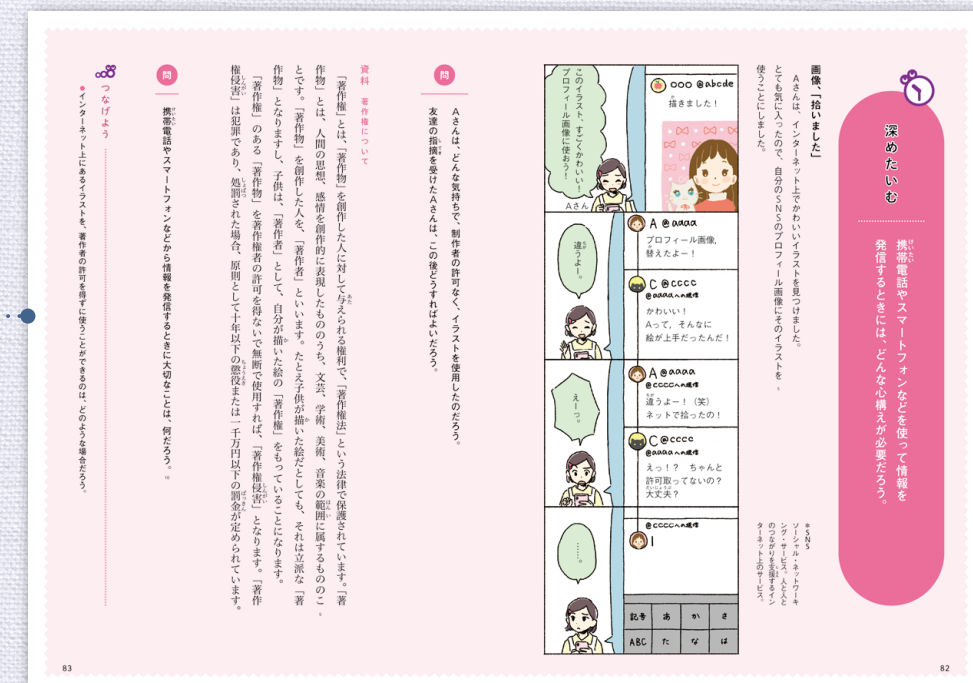
つい夢中になりがちな、動画視聴、ゲーム、グループトーク。情報機器に支配されないために必要な心構えを考えます。

3年

「知らなかった」では済まされない、著作権。著作権侵害をしないため、情報を発信するときに大切なことを考えます。



2年「深めたいむ」p.63



3年「深めたいむ」p.82